

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4927472号
(P4927472)

(45) 発行日 平成24年5月9日 (2012.5.9)

(24) 登録日 平成24年2月17日 (2012.2.17)

(51) Int.Cl.

E O 4 H 1/02 (2006.01)

F I

E O 4 H 1/02

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2006-219713 (P2006-219713)
 (22) 出願日 平成18年8月11日 (2006.8.11)
 (65) 公開番号 特開2008-45300 (P2008-45300A)
 (43) 公開日 平成20年2月28日 (2008.2.28)
 審査請求日 平成20年10月31日 (2008.10.31)

(73) 特許権者 000183428
 住友林業株式会社
 東京都千代田区大手町一丁目3番2号
 (74) 代理人 100076532
 弁理士 羽鳥 修
 (74) 代理人 100107205
 弁理士 前田 秀一
 (74) 代理人 100112818
 弁理士 岩本 昭久
 (74) 代理人 100101292
 弁理士 松嶋 善之
 (72) 発明者 土屋 誠一郎
 東京都千代田区丸の内一丁目8番1号 住
 友林業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 採光構造部分を備える建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

屋外に面した外壁に隣接して設けられた、主要部分が1.0層分の高さを備えると共に、前記外壁と垂直な屋外に面した両側の垂直外壁に沿った部分に、当該両側の垂直外壁に沿って各々設けられた1.5層分の高さの吹抜け部を有する、当該両側の垂直外壁によって挟まれた連続した空間となっている下階居住部と、両側の前記吹抜け部の上方に、主床、又は主床よりも0.5層分高くなったロフト又は収納庫を配置して設けられた上階居住部と、両側の前記吹抜け部の1.0層分の高さを超える部分において、屋外に面した前記外壁及び前記垂直外壁に設けられた採光窓とによって構成される採光構造部分を備える建物。

【請求項 2】

前記上階居住部は、前記下階居住部の1.5層分の高さの前記吹抜け部の上に主床を配置して設けられ、該主床と前記下階居住部の主要部分との間の空間に、0.5層分の高さの収納庫が設けられる請求項1に記載の採光構造部分を備える建物。

【請求項 3】

前記上階居住部は、前記下階居住部の1.0層分の高さの主要部分の上に主床を配置して設けられ、前記吹抜け部の上方には、前記上階居住部の主床よりも0.5層分高くなったロフト又は収納庫が設けられる請求項1に記載の採光構造部分を備える建物。

【請求項 4】

前記上階居住部の前記屋外に面した外壁に隣接して、バルコニーが、前記吹抜け部の内

側縁部の延長線の内側に設けられており、且つ該バルコニーの側縁部は、前記延長線から角度を持たせてこれの内側に斜めに配置される請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の採光構造部分を備える建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、吹抜け部からの採光及び通風を効率良く行うことのできる採光構造部分を備える建物に関する。

【背景技術】

【0002】

建物の内部に吹抜け部を設けて採光や通風を効果的に行えるようにした建物が知られているが（例えば、特許文献 1 参照）、建物の居住部に吹抜け部を設ける場合、例えば上階の天井部や屋根裏部まで至る高さの吹抜け空間とすると、ゆったりとした開放感を与える適度な高さを超えて吹抜け部が居住部に形成されることになり、居住部の上方の空間を有効利用できなくなって、吹抜け部に無駄な空間が生じることになる。

【0003】

このようなことから、例えば二階の一画の床を高くして床高部屋を形成し、この床高部屋の直下の一階天井を高くし、床高部屋を中三階として使用すると共に、中三階の直下の部屋を吹抜け部のある部屋として使用することにより、吹抜け部の上方の空間を有効利用できるようにした建物も開示されている（例えば、特許文献 2 参照）。

【特許文献 1】特開 2001 - 193294 号公報

【特許文献 2】特開平 10 - 266591 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献 2 に記載の建物では、中三階の直下の吹抜け部のある部屋は、当該吹抜け部の上方が中三階の床によって閉塞されていると共に、当該吹抜け部は、屋外に面した外壁のうちの一方向の外壁にしか面しておらず、吹抜け部の 1 階の高さよりも上方にある部分からは、この一方向の外壁を介してしか採光や通風を得ることができない構造となっている。このため、天井が高くなった吹抜け部から十分な採光や通風を得ることが困難である。

【0005】

また、特に、例えば隣家の建物が周囲に近接する狭小な敷地に建てられる建物の場合、建物の下階部分は、隣家の建物によって遮られて光を採り込み難くなっているため、吹抜け部の高い位置から光を下階居住部に効果的に採り込めるようにする技術の開発が望まれている。

【0006】

本発明は、吹抜け部の上方の空間を有効利用することができると共に、吹抜け部の高い位置から下階居住部に効果的に光を採り込めるようにすることのできる採光構造部分を備える建物を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、屋外に面した外壁に隣接して設けられた、主要部分が 1 . 0 層分の高さを備え、前記外壁と垂直な屋外に面した両側の垂直外壁に沿った部分に、当該両側の垂直外壁に沿って各々設けられた 1 . 5 層分の高さの吹抜け部を有する、当該両側の垂直外壁によって挟まれた連続した空間となっている下階居住部と、両側の前記吹抜け部の上方に、主床、又は主床よりも 0 . 5 層分高くなったロフト又は収納庫を配置して設けられた上階居住部と、両側の前記吹抜け部の 1 . 0 層分の高さを超える部分において、屋外に面した前記外壁及び前記垂直外壁に設けられた採光窓とによって構成される採光構造部分を備える建物を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【 0 0 0 9 】

また、本発明の採光構造部分を備える建物によれば、前記上階居住部は、前記下階居住部の 1 . 5 層分の高さの前記吹抜け部の上に主床を配置して設けられ、該主床と前記下階居住部の主要部分との間の空間に、 0 . 5 層分の高さの収納庫が設けられていることが好ましい。

【 0 0 1 0 】

さらに、本発明の採光構造部分を備える建物によれば、前記上階居住部は、前記下階居住部の 1 . 0 層分の高さの主要部分の上に主床を配置して設けられ、前記吹抜け部の上方には、前記上階居住部の主床よりも 0 . 5 層分高くなったロフト又は収納庫が設けられていることが好ましい。

10

【 0 0 1 1 】

さらにまた、本発明の採光構造部分を備える建物によれば、前記上階居住部の前記屋外に面した外壁に隣接して、バルコニーが、前記吹抜け部の内側縁部の延長線の内側に設けられており、且つ該バルコニーの側縁部は、前記延長線から角度を持たせてこれの内側に斜めに配置されていることが好ましい。

【 0 0 1 2 】

ここで、上記記載における 1 . 5 層分の高さは、一般に 2 3 0 ~ 4 0 0 c m 程度の高さを有する建物の 1 層分の高さに、これの略半分程度の高さを加えて、1 層分の高さの 2 層分の高さの中間部分に位置する高さを略称するものであり、1 層分の高さの 1 . 5 倍の高さの他、1 層分の高さの 1 . 4 0 ~ 1 . 7 5 倍程度の高さを含むものである。また以下の記載において、0 . 5 層分の高さは、一般に 2 3 0 ~ 4 0 0 c m 程度の高さを有する 1 層分の高さの中間部分に位置する高さを略称するものであり、1 層分の高さの 1 / 2 の高さの他、1 層分の高さの 4 0 ~ 7 5 % 程度の高さを含むものである。

20

【 0 0 1 3 】

本発明の採光構造部分を備える建物によれば、屋外に面した外壁に隣接して設けられた下階居住部が 1 . 5 層分の高さの吹抜け部を有することにより、この吹抜け部によって下階居住部にゆったりとした開放感を与えると共に、吹抜け部を適度な高さに留めて、これの上方を上階居住部やロフト、収納庫等として有効利用することが可能になる。また吹抜け部は、屋外に面した外壁と垂直な垂直外壁に沿った部分に設けられ、採光窓は、吹抜け部の 1 . 0 層分の高さを超える部分において、屋外に面した外壁及び垂直外壁の双方に設けられているので、広い角度範囲にわたって、吹抜け部の高い位置に配置された採光窓から斜め下方に向けて、下階居住部に効率良く且つ容易に光を採り込むことが可能になり、これによって下階居住部に効果的に採光することが可能になる。

30

【 0 0 1 4 】

そして、垂直外壁を下階居住部を挟んだ両側に設け、吹抜け部を両側の垂直外壁に沿って各々設けるようにすれば、さらに広い角度範囲にわたって、吹抜け部の高い位置に配置された採光窓から下階居住部に光を採り込むことが可能になり、これによって下階居住部にさらに効果的に採光することが可能になる。

【 0 0 1 5 】

また、上階居住部の主床を、下階居住部の 1 . 5 層分の高さの吹抜け部の上に配置し、主床と下階居住部の主要部分との間の空間に、上階部分から出し入れ可能な 0 . 5 層分の高さの収納庫を設ければ、吹抜け部の上部の空間を上階居住部として有効利用できると共に、下階居住部と上階居住部との間の空間を利用して、十分な大きさを有し且つ利便性に優れた収納庫を得ることが可能になる。

40

【 0 0 1 6 】

さらに、上階居住部の主床を、下階居住部の 1 . 0 層分の高さの主要部分の上に配置し、吹抜け部の上方に、上階居住部の主床よりも 0 . 5 層分高くなったロフト又は収納庫を設ければ、吹抜け部の上部の空間をロフト又は収納庫として有効利用できると共に、上階居住部からの出入りや出し入れが容易な、相当の大きさを有し且つ利便性に優れたロフトや収納庫を上階居住部に得ることが可能になる。

50

【 0 0 1 7 】

さらにまた、上階居住部の屋外に面した外壁に隣接して設けられるバルコニーを、吹抜け部の内側縁部の延長線の内側に配設し、且つ該バルコニーの側縁部を、吹抜け部の内側縁部の延長線から角度を持たせてこれの内側に斜めに配置しておけば、吹抜け部の高い位置に配置された採光窓から下階居住部に採り込まれる光がバルコニーによって遮られるのを回避して、上階居住部に隣接してバルコニーを設けた場合でも、広い角度範囲にわたって、採光窓から下階居住部に効果的に光を採り込むことが可能になる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 8 】

本発明の採光構造部分を備える建物によれば、1 . 5 層分の高さの吹抜け部の上方の空間と下階居住部の 1 . 0 層分の高さの主要部分の上方の空間とを有効利用することができると共に、両側の吹抜け部の高い位置から、両側の垂直外壁によって挟まれた連続した空間となっている下階居住部に効果的に光を採り込めるようにすることができる。

10

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 9 】

本発明の好ましい第 1 実施形態に係る採光構造部分を備える建物 1 0 は、図 1 示すように、例えば北側が道路 1 1 に面した狭小な敷地 1 2 に建築される住宅建築物として採用されたものである。すなわち、本第 1 実施形態では、建物 1 0 が建築される敷地 1 2 は、南北方向に縦長の矩形形状を有する狭小な敷地となっており、その東側及び西側に隣接する敷地や、南東側、南側、南西側に隣接する敷地にも隣家の建物 6 0 が建築されている。したがって、本第 1 実施形態の建物 1 0 は、特に南東側、南側、南西側に隣接する敷地に建築された隣家の建物 6 0 に遮られて、1 階（下階）居住部 1 4 に太陽光からの光を採光し難くなっているため、後述する採光構造部分 1 3 を設けて（図 2 及び図 3（a），（b）参照）、吹抜け部 1 5 の上方の空間を有効利用しつつ、吹抜け部 1 5 の高い位置に設けた採光窓 1 6 a，1 6 b から、1 階（下階）居住部 1 4 に十分な採光が得られるようにするものである。

20

【 0 0 2 0 】

そして、本第 1 実施形態の建物 1 0 は、図 2 及び図 3（a），（b）に示すように、屋外に面した南側の外壁 1 7（図 3（a），（b）参照）に隣接して設けられ、この南側の外壁 1 7 と垂直な垂直外壁 1 8 a，1 8 b に沿った部分に 1 . 5 層分の高さの吹抜け部 1 5 を有する、主要部分 1 4 a が 1 . 0 層分の高さの 1 階（下階）居住部 1 4 と、吹抜け部 1 5 の 1 . 0 層分の高さを超える部分において、南側の外壁 1 7 及び垂直外壁 1 8 a、1 8 b に設けられた採光窓 1 6 a，1 6 b と、1 階居住部 1 4 の上方に設けられた 2 階（上階）居住部 1 9 とによって構成される採光構造部分 1 3 を備えている。

30

【 0 0 2 1 】

また、本第 1 実施形態では、南側の外壁 1 7 と垂直な垂直外壁 1 8 a，1 8 b は、1 階居住部 1 4 を挟んだ東側及び西側の両側に設けられ、吹抜け部 1 5 は、これらの東側の垂直外壁 1 8 a 及び西側の垂直外壁 1 8 b に沿って各々設けられている。

【 0 0 2 2 】

さらに、本第 1 実施形態では、2 階（上階）居住部 1 9 は、1 階居住部 1 4 の 1 . 5 層分の高さの吹抜け部 1 5 の上に主床 2 0 を配置して設けられ、この主床 2 0 と下階居住部 1 4 の主要部分 1 4 a の天井部 1 4 b との間の空間に、0 . 5 層分の高さの収納庫 2 1 が設けられている（図 2 参照）。

40

【 0 0 2 3 】

本第 1 実施形態によれば、建物 1 0 は、例えば木造 2 階建ての住宅建築物である。建物 1 0 の 1 階部分の間取りとしては、図 3（a）に示すように、その北東の角部分に玄関 2 2 が設けられており、玄関 2 2 の南側には、玄関ホール 2 3 が設けられている。玄関ホール 2 3 の西側には、玄関ホール 2 3 から L 字形状に折れ曲がるようにして、廊下 2 4 が南北方向に延設して設けられており、廊下 2 4 の北側には、玄関 2 2 の西側に配置されて、押入れ 2 5 a 付きの和室 2 5 が設けられている。また、廊下 2 4 の西側には、和室 2 5 の

50

押入れ 2 5 a の南側に隣接して、トイレ 2 6 が設けられており、廊下 2 4 の東側には、玄関ホール 2 3 の南側に隣接して、2 階への階段 2 7 及び階段下収納部 2 8 が設けられている。

【 0 0 2 4 】

さらに、1 階部分には、廊下 2 4 の南側の端部と出入り可能に連通して、南側の略半分の領域を占めるリビングダイニングが、採光構造部分 1 3 を構成する 1 階居住部 1 4 として、屋外に面した南側の外壁 1 7 に隣接すると共に、東側の垂直外壁 1 8 a 及び西側の垂直外壁 1 8 b によって両側を挟まれた連続する空間として設けられている。さらにまた、リビングダイニング 1 4 の北西の角部分には、トイレ 2 6 の南側に隣接して、リビングダイニング 1 4 から出入り可能なキッチン 2 9 が設けられている。

10

【 0 0 2 5 】

一方、建物 1 0 の 2 階部分の間取りとしては、図 3 (b) に示すように、1 階部分との間に設けられた折返し階段 2 7 に隣接して、上階廊下 3 0 が、南北方向に延設して設けられており、この上階廊下 3 0 の北側端部にトイレ 3 1 が設けられている。上階廊下 3 0 の東側には、折返し階段 2 7 の北側に隣接して、洗面脱衣室 3 2 が設けられており、洗面脱衣室 3 2 の北側には、トイレ 3 1 の東側に隣接して、バスルーム 3 3 が設けられている。また、折返し階段 2 7 の南側の 2 階居住部 1 9 との間には、2 階居住部 1 9 から出入り可能なウォークインクロゼット 3 6 が設けられている。さらに、上階廊下 3 0 の西側には、一对の洋室 3 4 a , 3 4 b が、仕切り収納庫 3 5 を挟んだ南北両側に並べて設けられている。

20

【 0 0 2 6 】

なお、本第 1 実施形態では、2 階居住部 1 9 を除いたこれの北側に位置する 2 階部分の床面は、1 . 0 層分の高さで設けられた 1 階部分の天井高さと同様高さとなるように設けられている。また、ウォークインクロゼット 3 6 の床高さは、2 階居住部 1 9 から出入りし易いように、1 . 5 層分の床高さとなっており、ウォークインクロゼット 3 6 の床面よりも下方の 1 階部分の天井との間の空間は、例えば折返し階段 2 7 から、或いは接続階段 3 7 の下部空間を介して洋室 3 4 b から出し入れ可能な第 2 収納庫となっている。

【 0 0 2 7 】

さらにまた、建物 1 0 の 2 階部分には、上階廊下 3 0 の南側の端部と出入り可能に連通して、南側の略 1 / 3 の領域を占める主寝室が、採光構造部分 1 3 を構成する 2 階居住部 1 9 として、屋外に面した南側の外壁 1 7 に隣接すると共に、東側の垂直外壁 1 8 a 及び西側の垂直外壁 1 8 b によって両側を挟まれて設けられている。この 2 階居住部 1 9 は、その主床 2 0 を、1 階居住部 1 4 の 1 . 5 層分の高さの吹抜け部 1 5 の上に配置して、床面が上階廊下 3 0 よりも 0 . 5 層分高く配設されており、上階廊下 3 0 からは、これの南側端部に設けられた接続階段 3 7 を介して、2 階居住部 1 9 に出入りできるようになっている。

30

【 0 0 2 8 】

また、本第 1 実施形態では、主寝室 1 9 の南側の外壁 1 7 に隣接して、バルコニー 3 8 が、その両側の側縁部 3 8 a を吹抜け部 1 5 の内側縁部 1 5 a の延長線 X に沿って配置して、南側の外壁 1 7 から外側に突出して設けられている。

40

【 0 0 2 9 】

そして、本第 1 実施形態の建物 1 0 によれば、採光構造部分 1 3 は、上述のように、南側の外壁 1 7 に隣接して設けられ、東側の垂直外壁 1 8 a 及び西側の垂直外壁 1 8 b に沿った部分に 1 . 5 層分の高さの吹抜け部 1 5 を有する、主要部分 1 4 a が 1 . 0 層分の高さの 1 階居住部 1 4 と、吹抜け部 1 5 の 1 . 0 層分の高さを超える部分において、南側の外壁 1 7 及び垂直外壁 1 8 a , 1 8 b に設けられた採光窓 1 6 a , 1 6 b と、1 階居住部 1 4 の上方に設けられた 2 階居住部 1 9 とによって構成される。

【 0 0 3 0 】

すなわち、1 階居住部 1 4 の各吹抜け部 1 5 は、東西両側の垂直外壁 1 8 a 、1 8 b に沿って、例えば建物 1 0 のモジュールに合わせた幅 b が 9 1 0 mm の縦長矩形平面形状の

50

領域を、１．０層分の高さの主要部分１４ａの天井部１４ｂよりも、その天井高さを０．５層分高くして設けた部分である。また、採光窓１６ａ、１６ｂは、建物１０の南東及び南西の角部３９ａ、３９ｂを挟んだこれらに近接する位置に配置されると共に、１．０層分の高さよりも上方部分において、採光窓１６ａは南側の外壁１７に形成される窓として、採光窓１６ｂは東西両側の垂直外壁１８ａ、１８ｂに形成される窓として各々設けられる。

【００３１】

このように、本第１実施形態によれば、採光構造部分１３を構成する１階居住部１４は、垂直外壁１８ａ、１８ｂに沿った部分に吹抜け部１５が設けられており、且つこの吹抜け部１５の１．０層分の高さを超える部分の南側の外壁１７及び垂直外壁１８ａ、１８ｂに採光窓１６ａ、１６ｂが各々設けられているので、広い角度範囲にわたって、吹抜け部１５の高い位置に配置された採光窓１６ａ、１６ｂから斜め下方に向けて、１階居住部１４に効率良く且つ容易に光を採り込むことが可能になる。

10

【００３２】

また、本第１実施形態によれば、垂直外壁１８ａ、１８ｂに沿った両側の吹抜け部１５の１．０層分の高さを超える部分によって挟まれる、２階居住部１９の主床２０と下階居住部１４の主要部分１４ａの天井部１４ｂとの間の空間には、０．５層分の高さの収納庫２１が設けられている（図２参照）。この収納庫２１は、吹抜け部１５の直上に位置する部分を除いた２階居住部１９の略全域にわたる大きさの平面形状の、大容量の収納空間を形成する。また、この収納庫２１には、２階居住部１９の床面に出入り口（図示せず。）を設けて２階居住部１９からの出入りや出し入れを行えるようになっている他、例えば２階部分の上階廊下３０の西側に設けた一对の洋室３４ａ、３４ｂのうちの南側の洋室３４ｂから（図３（ｂ）参照）、２階居住部１９との間の０．５層分の段差壁に設けた出入り口４０を介して、収納庫２１への出入りや出し入れを容易に行うことができるようになっている。さらに、この収納庫２１には、吹抜け部１５に面した仕切り壁２１ａの適宜の位置に、窓２１ｂを設けておくこともできる（図２参照）。

20

【００３３】

なお、本第１実施形態では、採光構造部分１３を構成する２階居住部１９の主床２０は、吹抜け部１５の上に配置されて１．５層分の高さに設けられるので、図４に示すように、２階居住部１９を支持する建物１０の柱として、１．５層分の高さに相当する長さを備える長柱４１を使用し、この長柱４１に両端を支持させて、２階居住部１９からの荷重を受ける大梁やその他の梁部材４２を長柱４１の間に架け渡すようになっている。一方、収納庫２１からの荷重を受ける大梁やその他の梁部材４３は、１．０層分の高さ位置において、長柱４２の間に架け渡して設けられるようになっている。なお、図４では、小梁や束材、間柱等は図示せず、主要構造材のみを略示している。

30

【００３４】

また、本第１実施形態では、２階居住部１９の主床２０は、１．５層分の高さに設けられるが、例えば２階居住部１９の天井高さを高くしたり、天井部材を取り除いて屋根裏まで至る空間とすることにより（図２参照）、２階居住部１９は、居住者が立って歩くのに十分な高さを保持することが可能になる。

40

【００３５】

そして、上述の構成を有する採光構造部分１３を備える本第１実施形態の建物１０によれば、吹抜け部１５の上方の空間を有効利用することができると共に、吹抜け部１５の高い位置から１階居室部１４に効果的に光を採り込むことができる。すなわち、本第１実施形態によれば、屋外に面した南側の外壁１７に隣接して設けられた１階居住部１４が１．５層分の高さの吹抜け部１５を有することにより、この吹抜け部１５によって１階居住部１４にゆったりとした開放感を与えると共に、吹抜け部１５を適度な高さに留めて、これの上方を２階居住部１９として有効利用することが可能になる。

【００３６】

また、吹抜け部１５は、屋外に面した南側の外壁１７と垂直な垂直外壁１８ａ、１８ｂ

50

に沿った部分に設けられ、採光窓 16 a , 16 b は、吹抜け部 15 の 1 . 0 層分の高さを
を超える部分において、南側の外壁 17 及び垂直外壁 18 a , 18 b の双方に設けられてい
るので、広い角度範囲にわたって、吹抜け部 15 の高い位置に配置された採光窓 16 a ,
16 b から斜め下方に向けて、1 階居住部 14 に効率良く且つ容易に光を採り込むことが
可能になり、これによって 1 階居室部 14 に効果的に採光することが可能になる。

【 0 0 3 7 】

さらに、本第 1 実施形態によれば、垂直外壁 18 a , 18 b を 1 階居住部 14 を挟んだ
東側及び西側の両側に設け、吹抜け部 15 が両側の垂直外壁 18 a , 18 b に沿って各々
設けられているので、さらに広い角度範囲にわたって、吹抜け部 15 の高い位置に配置さ
れた採光窓 16 a , 16 b から 1 階居住部 14 に光を採り込むことが可能になり、これに
よって 1 階居室部 14 にさらに効果的に採光することが可能になる。

10

【 0 0 3 8 】

さらにまた、本第 1 実施形態によれば、2 階居住部 19 の主床 20 を、1 階居住部 14
の 1 . 5 層分の高さの吹抜け部 15 の上に配置し、主床 20 と 1 階居住部 14 の主要部分
14 a との間の空間に、0 . 5 層分の高さの収納庫 21 を設ければ、吹抜け部 15 の上方
の空間を 2 階居住部 19 として有効利用できると共に、1 階居室部 14 と 2 階居住部 19
との間の空間を利用して、十分な大きさを有し且つ利便性に優れた収納庫 21 を得ること
が可能になる。

【 0 0 3 9 】

図 5 は、本発明の第 2 実施形態に係る建物 50 を示すものである。本第 2 実施形態の建
物 50 は、上記第 1 実施形態の建物 10 と略同様の構成を備える一方で、2 階（上階）居
住部 19 ' は、1 階（下階）居住部 14 の 1 . 0 層分の高さの主要部分 14 a の上に主床
20 ' を配置して設けられ、吹抜け部 15 の上方には、2 階居住部 19 ' の主床 20 ' よりも
0 . 5 層分高くなった、ロフト 51 や収納庫としてのクロゼット 52 が設けられてい
る。また、ロフト 51 の外側部分を西側の垂直外壁 18 b から張り出して、ハネ出し部 5
3 を設けておくこともできる。

20

【 0 0 4 0 】

さらに、本第 2 実施形態では、2 階居住部 19 ' の南側の外壁 17 に隣接して、図 6 に
示すように、バルコニー 38 ' が外側に張り出して設けられている。本第 2 実施形態では
、バルコニー 38 ' は、その床面を 2 階居住部 19 ' の 1 . 0 層分の高さの主床 20 ' と
同じ高さに配置して設けられている。またバルコニー 38 ' は、吹抜け部 15 の内側縁部
15 a の延長線 X の内側に設けられており、且つバルコニー 38 ' の側縁部 38 a ' は、
吹抜け部 15 の内側縁部 15 a の延長線 X から角度を持たせてこれの内側に斜めに配置さ
れている。

30

【 0 0 4 1 】

そして、本第 2 実施形態の採光構造部分 13 ' を備える建物 50 によっても、吹抜け部
15 の上方の空間を有効利用することができると共に、採光窓 16 a , 16 b を介して吹
抜け部 15 の高い位置から 1 階居室部 14 に効果的に光を採り込むことが可能になり、上
記第 1 実施形態の建物 10 と同様の作用効果が奏されると共に、2 階居住部 19 ' の主床
20 ' を、1 階居住部 14 の 1 . 0 層分の高さの主要部分 14 a の上に配置し、吹抜け部
15 の上方に、2 階居住部 19 ' の主床 20 ' よりも 0 . 5 層分高くなったロフト 51 や
収納庫 52 を設けたので、吹抜け部 15 の上部の空間をロフト 51 や収納庫 52 として有
効利用できると共に、2 階居住部 19 ' からの出入りや出し入れが容易な、相当の大き
さを有し且つ利便性に優れたロフト 51 や収納庫 52 を 2 階居住部 19 ' に確保することが
可能になる。

40

【 0 0 4 2 】

また、本第 2 実施形態によれば、2 階居住部 19 ' の屋外に面した外壁 17 に隣接して
設けられるバルコニー 38 ' を、吹抜け部 15 の内側縁部 15 a の延長線 X の内側に配
設し、且つバルコニー 38 ' の側縁部 38 a ' を、吹抜け部 15 の内側縁部 15 a の延長
線 X から角度を持たせてこれの内側に斜めに配置したので、吹抜け部 15 の高い位置に配置

50

された採光窓 16 a , 16 b から 1 階居住部 19 ' に採り込まれる光がバルコニー 38 ' によって遮られるのを回避して、2 階居住部 19 ' に隣接してバルコニー 38 ' を設けた場合でも、広い角度範囲にわたって、採光窓 16 a , 16 b から 1 階居住部 14 に効果的に光を採り込むことが可能になる。

【0043】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、本発明の建物は、南北方向に縦長の矩形形状の敷地に建築されるものである必要は必ずしも無く、採光構造部分は、屋外に面した外壁が南側に向けて配置されたものである必要は必ずしも無い。採光構造部分の屋外に面した外壁は、南側以外の例えば西側やその他の方向に向けて配置されていても良い。また、採光構造部分は、2 階建ての建物の他、例えば 2 階を下階部分、3 階を上階部分として、3 階建て以上の建物に設けて本発明を適用することもできる。

【図面の簡単な説明】

【0044】

【図 1】本発明の好ましい第 1 実施形態に係る採光構造部分を備える建物が建築される敷地を説明する略示平面図である。

【図 2】本発明の好ましい第 1 実施形態に係る採光構造部分を備える建物の構成を説明する、図 3 (a) , (b) の A - A に沿った略示断面図である。

【図 3】本発明の好ましい第 1 実施形態に係る採光構造部分を備える建物の構成を説明する、(a) は 1 階部分の間取り図、(b) は 2 階部分の間取り図である。

【図 4】本発明の好ましい第 1 実施形態に係る建物の採光構造部分における骨組部材の配置を説明する略示斜視図である。

【図 5】本発明の好ましい第 2 実施形態に係る採光構造部分を備える建物の略示断面図である。

【図 6】本発明の好ましい第 2 実施形態に係る採光構造部分を備える建物の部分破断略示平面図である。

【符号の説明】

【0045】

- 10 , 50 採光構造部分を備える建物
- 13 採光構造部分
- 14 1 階居住部 (下階居住部)
- 14 a 1 階居住部の主要部分
- 14 b 1 階居住部の主要部分の天井部
- 15 吹抜け部
- 16 a , 16 b 採光窓
- 17 屋外に面した外壁 (南側の外壁)
- 18 a , 18 b 垂直外壁
- 19 , 19 ' 2 階居住部 (上階居住部)
- 20 , 20 ' 2 階居住部の主床
- 21 収納庫
- 38 , 38 ' バルコニー
- 38 a , 38 a ' バルコニーの側縁部
- 51 ロフト
- 52 クロゼット (収納庫)
- X 吹抜け部の内側縁部の延長線

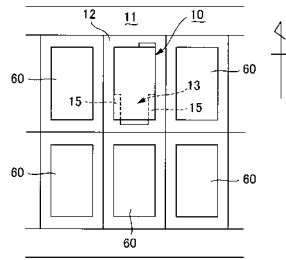
10

20

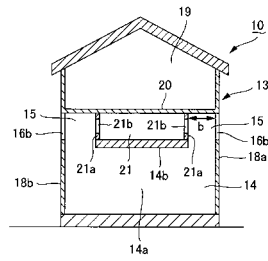
30

40

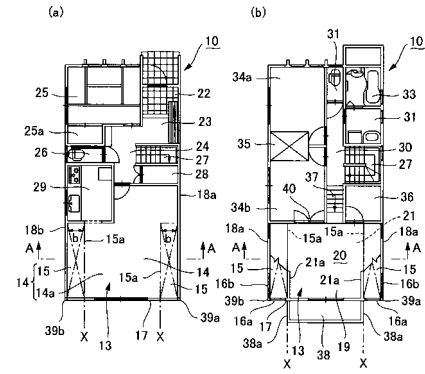
【 図 1 】



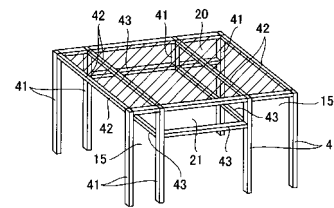
【 図 2 】



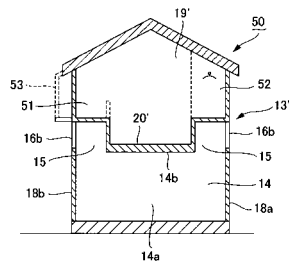
【 図 3 】



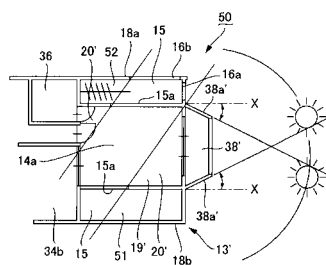
【 図 4 】



【 図 5 】



【圖 6】



フロントページの続き

審査官 渋谷 知子

- (56)参考文献 特開2006-037710(JP,A)
特開2004-339880(JP,A)
特開平11-062275(JP,A)
特開2000-160852(JP,A)
特開平11-256851(JP,A)
実開昭60-162601(JP,U)
特開2002-106184(JP,A)
講談社編,住宅の新築プラン 間取り500+外観500,日本,株式会社講談社,1999年 7月26日,p.63,120,154,174

- (58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)
E04H 1/02